

資料提供	
平成 29 年 12 月 20 日	
担当課 (担当者)	埋蔵文化財センター (大川・濱田)
電 話	0857-85-5011

国史跡青谷上寺地遺跡第 1 7 次発掘調査で出土した銅戈片 －中国地方以西で初めて発見された近畿（大阪湾）型銅戈－

平成 28・29 年度に実施した国史跡青谷上寺地遺跡第 1 7 次調査で弥生時代終末期（3 世紀前半）の地層から、弥生時代中期の武器形祭器の一つ「銅戈」の破片が出土しました。この銅戈は近畿（大阪湾）型銅戈と呼ばれるもので、中国地方以西では初めての発見です。

ついては、下記のとおり記者公開を行いますので、取材にお越しく下さい。

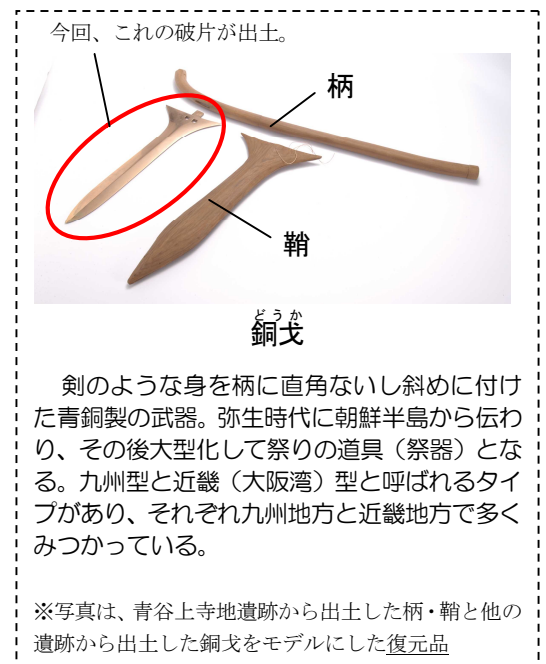
1 記者公開

日 時 1 2 月 2 5 日（月） 午後 1 時 3 0 分から

場 所 鳥取県埋蔵文化財センター（鳥取市国府町宮下 1 2 6 0）

概 要

- (1) 調査機関 鳥取県埋蔵文化財センター
- (2) 調査担当 青谷上寺地遺跡調査整備担当
係長 濱田竜彦 文化財主事 大川泰広
- (3) 調査期間 平成 28 年 8 月 1 日
～平成 29 年 1 2 月 2 0 日
- (4) 調査面積 525m²
- (5) 出土した銅戈片について
 - ・弥生時代終末期（約 1 8 0 0 年前）の包含層から出土
青谷上寺地遺跡で初めて出土した銅戈
 - ・破片の状態出土 長さ 3. 4 cm、幅 2. 3 cm
 - ・近畿（大阪湾）型銅戈の特徴を備える
国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈群（兵庫県）の銅戈と同型式
弥生時代中期後半（紀元前 2 ～ 1 世紀）に製作されたもの
中国地方以西の地域で初めての出土



剣のような身を柄に直角ないし斜めに付けた青銅製の武器。弥生時代に朝鮮半島から伝わり、その後大型化して祭りの道具（祭器）となる。九州型と近畿（大阪湾）型と呼ばれるタイプがあり、それぞれ九州地方と近畿地方で多くみつかっている。

※写真は、青谷上寺地遺跡から出土した柄・鞘と他の遺跡から出土した銅戈をモデルにした復元品

2 銅戈片出土の意義

青谷上寺地遺跡で初めて確認された銅戈

- ・青谷上寺地遺跡では戈形木製品、戈の柄や鞘（いずれも木製）が出土していたが（右上写真）、銅戈の存在は不明だった。今回の発見は青谷上寺地遺跡における武器形祭器を使った祭りを考える上で重要。

中国地方以西で初めて出土した近畿（大阪湾）型銅戈

- ・近畿（大阪湾）型銅戈の破片が山陰地方に及んでいた事実は、弥生時代の社会、地域間の関係、青銅器の流通を考える上で重要。

破片で出土

- ・本来は弥生時代中期の武器形祭器。ところが、本資料は終末期の地層から破片の状態出土しており、再利用を目的とした素材だった可能性が考えられる。弥生時代における青銅利用、素材としての消費の実態を考える上で重要な発見。